凡　　例

この辞典は，日本における中医学学習の機運の高まりのなか，難解な中医学用語への戸惑いを解消するために，日本の学徒の実情に合わせて編纂されたものである。天津中医薬研究院元院長・高金亮教授を中心として天津中医薬大学の執筆者陣が原稿を書き下ろし，それを本辞典翻訳委員会の努力によって読みやすい日本語に翻訳して，完成した。基本的な中医学の専門用語，約3,500語が収録されている。なお，この辞典では，漢字表記においてできる限り旧字の使用を避け，新字を採用している。

1．見出し語について

・見出し語の配列は五十音順とし，同音語は第一字目の漢字の画数順に配列した。
・見出し語には，親見出し語・子見出し語・孫見出し語の３種類がある。
・親見出し語は，すべて❖マークの後ろにゴシック体で記載している。
・親見出し語の下部構造には ▸ マークを付けて子見出し語を配列し，さらに下には ▸▸ マークを付けて孫見出し語を配列している。
・検索の便宜上，子見出し語･孫見出し語については，五十音順の配列上にも❖マークを付けて仮見出し語として配列した。また，仮見出し語から容易に解説ページに飛べるように⇒の後に［親見出し語］あるいは［親見出し語→子見出し語］を付した。

例　❖**陰** …… 親見出し語
　　▸**陰水** …… 子見出し語
　　▸▸**腎気衰陰水** …… 孫見出し語
　　❖**陰水** ⇒［陰］…… 仮見出し語
　　❖**腎気衰陰水** ⇒［陰→陰水］…… 仮見出し語

2．子見出し語について

子見出し語には，２つの種類が含まれている。１つは，親見出し語にある病名について，その証型が子見出し語となっているものである。

例　❖**感冒**
　　▸**風寒感冒**
　　▸**風熱感冒**

もう１つは，親見出し語を語頭に含む語が子見出し語となっているものである。

例　❖**陰陽**

▸**陰陽学説**

▸**陰陽互根**

３．読み仮名について

表記上，見出し語にはすべて読み仮名を付けた。

例　**陰陽**（いんよう）

そのうち訓読が可能な見出し語，あるいは訓読文の形式がより適する見出し語については訓読文を併記している。

例　**陰在内，陽之守**（いんざいない，ようししゅ）――陰（いん）は内（うち）に在（あ）りて，陽（よう）の守（しゅ）なり

この辞典にはいまだ日本に定着していない中医学用語が数多く収録されている。したがって，読み方についても公式には確定されていないものが多い。この辞典における読み仮名は，読者の便をはかるために当編集部が付したものであり，１つの提案と考えていただきたい。

原則としては，日本語の法則（入声音の変化など），読み癖（例えば積聚は「せきしゅう」）などを参考にし，最終的には編集部の判断にもとづいて読み仮名を決定した。

・入声音の変化について：入声の漢字（例えば「熱」や「六」など，「フ，ツ，キ，ク，チ」の音で終わる文字）のあとに「ｋ，ｓ，ｔ，ｐ」などの子音が続くと，入声音が促音便化することが多い。

例　**熱証**（ねつしょう→ねっしょう），**六経**（ろくけい→ろっけい）

また，撥音（ん）あるいは入声音のあとにハ行の音が続くと，ハ行の音は半濁音になることが多い。さらに入声の場合には，促音便化も同時にみられる。

例　**肝脾**（かんひ→かんぴ），**八法**（はちほう→はっぽう）

４．解説文について

・複数の意味をもつ用語については，「①，②，③，……」のように分けて記載している。

・解説文中で，＊マークの付いている語は，本辞典中に独立した見出し語として収載されていることを表している。

例　その音は重くて長く，呃逆*のような……

・出典であることが明らかな古典は，＜㊟『書名』＞として記載した。そのほか，出典とは確定されないが，その用語の記述がみられる古典は，＜『書名』＞として記

載した。出典に関しては,『中医大辞典』(人民衛生出版社) などを参照している。

・☞マークのあとに記されている用語は，参照すべき用語あるいは解説の書かれている関連用語を示している。

例　☞瘀血(おけつ)
【詳細】☞傷食(しょうしょく)
【外治法】☞有頭疽(ゆうとうそ)

5．付録について

この辞典の付録としては，以下のものを収載している。

① 同義語集
② 中国医薬学史年表
③ 五行分類表
④ 中薬一覧表
⑤ 方剤一覧表
⑥ 度量衡換算表
⑦ 十二経脈図
⑧ 奇経八脈図
⑨ 身体図

なお，⑦十二経脈図，⑧奇経八脈図は『医宗金鑑』より引用，編集している。

6．索引について

この辞典では，読者が容易に検索できるよう，巻末に「総索引」「分類索引」「画数索引」を付した。